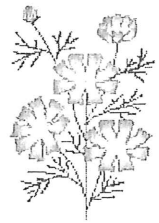


## ●業務活用ワンポイントレファレンス

## 最近のレファレンスサービス 2 例



安達 栄子

## 「日本人の大腿部周径の平均値は？」

依頼事例：整形外科病棟の看護師 2 名来室。患者がベッド上で側臥位を保つことを目的とした、脚を載せる器具を作製する研究を行っている。その器具の設計を行う際に、「日本人の大腿部周径の平均値」を根拠として作製したいと考えている。そういったデータを得るにはなにを調べたらよいか？

調査経過・回答：申込者と一緒にまず文献検索を医中誌 WEB でおこなう。目的の器具の作製については他病院での事例報告などがみつき、そのうちのいくつかは図書室に所蔵有り。文献にあたってみるが、作製の際に大腿部周径のデータを根拠としたものは見当たらない。

その後インターネットの検索エンジン Google で情報検索。キーワードは“身体計測、身体測定、身体、測定、計測、データ、基準値、平均、大腿部周径、大腿”等々思いつくままに入力。ヒットした中であつた厚生労働省ホームページでは身長・体重などのデータはあるが、大腿周径はなし。調べているうちに 21 年前の雑誌、『医学のあゆみ』120 巻 5 号、P.387-395、1982 年に金昌雄ほか著の「身体計測」という文献があることがわかる。当図書室に所蔵しており、文献にあたってみるが、栄養状態のスクリーニング検査法としての身体計測である。そ

のため身長、体重、上腕囲などのデータのみで、大腿部周径は無し。その後これを手がかりに調べていくと、この金らの報告以来 19 年ぶりに身体計測基準値が改訂されたという情報を得る。これには載っているのではないかと期待する。

それは『日本人成人（18 歳以上）の新身体計測基準値（JARD2001）』で、雑誌『栄養—評価と治療』の増刊号で出版されている。上記図書を見計らいすが「大腿部周径」のデータはやはり載っていない。ここでこの調査は行き詰まる。

申込者には上記の経緯を伝え、そうしたデータ自体が存在するのか不明である為、申込を謝絶する。

上記のやり取りの約 2 ヶ月後、自宅で偶然に見ていた雑誌（『日経デザイン』第 190 号 2003 年 4 月発行）に人間生活工学研究センター「日本人の人体計測データ」が紹介されているのを発見。上記センターのホームページアドレスの記載もある。早速そのホームページを見てみると人体 178 ヶ所ものデータの中に、大腿部周径も載っている。しかし図書『日本人の人体計測データ』（ISBN：なし）は「現在出版元で図書は在庫なし」とホームページに記載されている。

申込者に連絡を取り、まだ必要としているかあらためて尋ねたところ「ぜひ入手したい」とのこと。ホームページ上で個別のデータを有料でダウンロードできるサービスもあるが、申込者から図書室で手配を頼みたいとの申し出。そこで当該図書を所蔵している図書館を Nacsis Webcat で探す。30 館弱の所蔵館が見つかるが、医学系の図書館はない。地理的に近隣の某

ADACHI Eiko

長岡赤十字病院 図書室

eikoalib@nagaoka.jrc.or.jp

図書館に電話にて文献複写が可能か伺うと、対応していただけるとの返事。入手したいデータが何ページに載っているか確認するため、一旦目次コピーを依頼する。送っていただいた目次を見るが、個別のデータの掲載ページまでは掲載されてはいない。再度、所蔵図書館に電話をし、その旨を伝えると「必要なデータの名称を申込用紙に記載すれば、こちらでページを探す」とおっしゃっていただける。その後無事該当データのコピーを入手。

サービス評価：申込者も図書室司書も一時はあきらめたレファレンスであったため、入手できたときはとても嬉しかった。思いがけないところからヒントを得られた事例であった。

日常業務である図書や雑誌の受入の際にブラウジングすることなどが、レファレンス業務に役立つことがある。このように業務に連続性のあるところが、図書室業務のおもしろさではないか、と思う。

\* \* \* \* \*

#### 「県内の臓器移植件数は？」

依頼事例：手術室看護師より。新潟県内の臓器移植の件数が知りたい。

調査経過・回答：医中誌 WEB で“臓器移植、統計”などのキーワードを用いて検索するが該当なし。インターネットの検索エンジン Google でキーワード“臓器移植 | 統計”で検索。リストの何件目かに「民間統計ガイド」を見つける。ページを開いてみると、図書として出版された『民間統計ガイド』（ISBN：なし）から抜粋された、インターネット上で提供されている様々な業種の統計へリンクしているページであることがわかる。

長文のページなので、ページ内の検索機能を使って該当箇所を探す（もしくは Google のキ

ャッシュ機能を使う）。すると「臓器移植統計」が（社）日本臓器移植ネットワークへリンクされる形で提供されている。さっそく（社）日本臓器移植ネットワークのホームページを開く。データファイルという項目があり、「臓器移植統計」が 1995 年から 2003 年まで掲載されている。腎臓については都道府県別の情報もあり。申込者はこれらのデータをプリントアウトし持ち帰る。

サービス評価：2003 年夏に行われた日赤図書室協議会の公開講座で（株）増進会出版社広報課 関裕司氏による講義があり、インターネットでの検索テクニックを教授いただいた。紹介された検索テクニックとして『タイトルを考えずに本文を想像する』『そのページに必ず含まれる語（キーワード）を使う』などがあったので、この事例を実践してみた。

Google でのキーワードを“臓器移植 | 心臓 | 肝臓 | 腎臓”の4つに変更し検索。するとリストのトップに出てきたのは「日本における臓器移植の歴史」というページだった。的確にヒットしているのだろうか？と半信半疑で開いてみると、これまで行われた 22 例の臓器移植の概要を年表形式で掲載されていた。さらにページの終わりには日本臓器移植ネットワークの統計ページへのリンクも張られていた。この事例では、まさに的確に検索できていた。

\* \* \* \* \*

多くは1人職場である図書室では、日常的に検索テクニックを習得する機会は少ない。しかし担当者の検索技術のレベルに関わらず、インターネットでの情報検索は欠かすことができない。インターネットは数年前には考えられないほどの情報入手を可能にしたからである。年に一度開かれる日赤図書室協議会研修会に、今後も情報検索の実践に役立つ講義を期待したい。